

第1章 調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査の趣旨

令和2年度に策定する千葉県男女共同参画（第5次）の基礎資料とすることを目的として、県民対象の意識調査を実施し、本県の男女共同参画の意識の変化や、実態を把握するとともに、課題の分析等を行う。

(2) 調査内容

- ①男女共同参画に関する意識等
- ②家庭生活
- ③教育
- ④人権
- ⑤DV
- ⑥仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス、男性の育児休業取得の義務化）
- ⑦あらゆる分野における女性活躍の推進
- ⑧少子・高齢化
- ⑨地域活動などへの参画
- ⑩回答者のプロフィール

(3) 調査設計

- ①調査地域 千葉県全域
- ②調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女
- ③標本数 2,000人
- ④標本抽出法 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックごとに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。
- ⑤調査方法 郵送により調査票・返信用封筒を配布し、郵送・オンラインで回収
- ⑥調査期間 令和元年11月1日～11月22日（11月29日到着分まで集計対象とした）

(4) 回収結果

回収率	756件 (37.8%)
女性	401件
男性	343件
その他	-件
無回答	12件

調査の概要

(5) 標本抽出

- ①調査対象 千葉県在住の満 20 歳以上の男女個人
- ②標本数 2,000 人
- ③地点数 100 地点 (市部 96・郡部 4)
- ④抽出法 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法

【層化】

①県内 6 地域分類

県内を次の 6 地域に分類した。

地 域	該 当 市 郡 名
千葉・葛南	千葉市、市原市、四街道市、市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市
東葛飾	松戸市、野田市、流山市、我孫子市、印西市、白井市、鎌ヶ谷市、柏市
北総	成田市、佐倉市、八街市、富里市、香取市、栄町、多古町、東庄町、酒々井町、神崎町
海匝・山武	銚子市、東金市、旭市、匝瑳市、山武市、大網白里市、九十九里町、横芝光町、芝山町
東上総	茂原市、勝浦市、いすみ市、長生村、白子町、長柄町、大多喜町、一宮町、睦沢町、長南町、御宿町
南房総	館山市、木更津市、君津市、袖ヶ浦市、富津市、鴨川市、南房総市、鋸南町



②県内5地域ごとの市部郡部分類

各地域内においては、更に市部、郡部に分け、層とした。

【標本数の配分】

各地域・市郡規模別の層における満20歳以上の人口（平成30年4月1日現在）に対して、2,000の標本数を比例配分した。

【抽出】

平成27年国勢調査時に設定された調査区の基本単位区を、第一抽出単位として使用した。

①調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における20歳以上国勢調査人口の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$

を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。

②抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、平成27年国勢調査時の「標準地域コード一覧」に従った。

③調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）を住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。

(6) 報告書の見方

本報告書を読む際の留意点は以下のとおり。

- ①結果はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分率の合計が100%にならないことや個々の比率の合計とその少数の数値が一致しないことがある。
- ②グラフ中の()内の数値は回答者総数(又は、分類別の該当者数)を示し、回答比率は、これを100%として算出した。
- ③標本誤差は、回答者数と得られた結果の比率によって異なるが、層化二段無作為抽出法による場合の誤差(信頼度95%)は次の式によって得られる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N = 母集団数 (=5,231,991人、基準日平成30年4月1日現在の20歳以上人口の推定数)

n = 比率算出の基数 (756件)

P = 回答の比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率 (P) n	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
756	± 3.1%	± 4.1%	± 4.7%	± 5.0%	± 5.1%
500	± 3.8%	± 5.1%	± 5.8%	± 6.2%	± 6.3%
200	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	±10.0%
100	± 8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%
50	±12.0%	±16.0%	±18.3%	±19.6%	±20.0%

注／標本誤差の表の見方

標本誤差とは…今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査においては、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが、上記の表である。見方としては、例えば、「ある設問の回答数が756であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±5.0%以内(65.0~55.0%)である」と見ることができる。

- ④ 1人の対象者に2つ以上の回答を認めた設問では、百分率（%）の合計は、100%を超える場合がある。
- ⑤ 分析の軸（縦軸）としたプロフィールや設問は、無回答を除いているため、各プロフィールの基数の合計が全体と一致しない場合がある。また、分析によっては、必要な選択肢を抽出して使用したり、複数の選択肢をまとめて仕様したりしているところもある。
- ⑥ グラフや表のタイトルなどは、なるべく調査票そのままの表現を用いているが、スペースなどの関係から一部省略した表現としている箇所がある。
- ⑦ 本調査は、平成26年度に行った「男女共同参画社会の実現に向けての県民意識調査」に続くものである。
- ⑧ 平成26年度調査との比較については、本調査で新たに追加した調査項目を掲載していない。
- ⑨ 国で実施した調査との比較については、国は個別面接調査で実施しているため、「無回答」がないことから、正確な比較は行えないため、参考とする。
- ⑩ 回答者数が20未満の場合は、比率が上下しやすいため分析の対象外とする場合がある。
- ⑪ クロス集計の分析で、分析の軸（＝表側）が性別や対になっている項目については、二つの差を記述している。その表現は%ではなく、ポイントで表すこととしている。
- ⑫ 統計数値を考察するに当たっては、表現を概ね以下のとおりとする。

例	表現
17.0～19.9%	約2割
20.0～20.9%	2割
21.0～22.9%	2割を超える
23.0～26.9%	2割半ば
27.0～29.9%	約3割